

CF CFII フジクリーン工業(株) OEM: なし 共同開発: KTG (株)ハウステック 処理方式: 沈殿分離・嫌気ろ床・好気循環方式 5・7・10人槽	窒素除去型		
	全浄協登録値		
	BOD	SS	T-N
	20mg/L以下	—	20mg/L以下
性能評定または性能評価値			
BOD	SS	T-N	
15mg/L以下	10mg/L以下	20mg/L以下	

初期標準設定

CF(CF II)

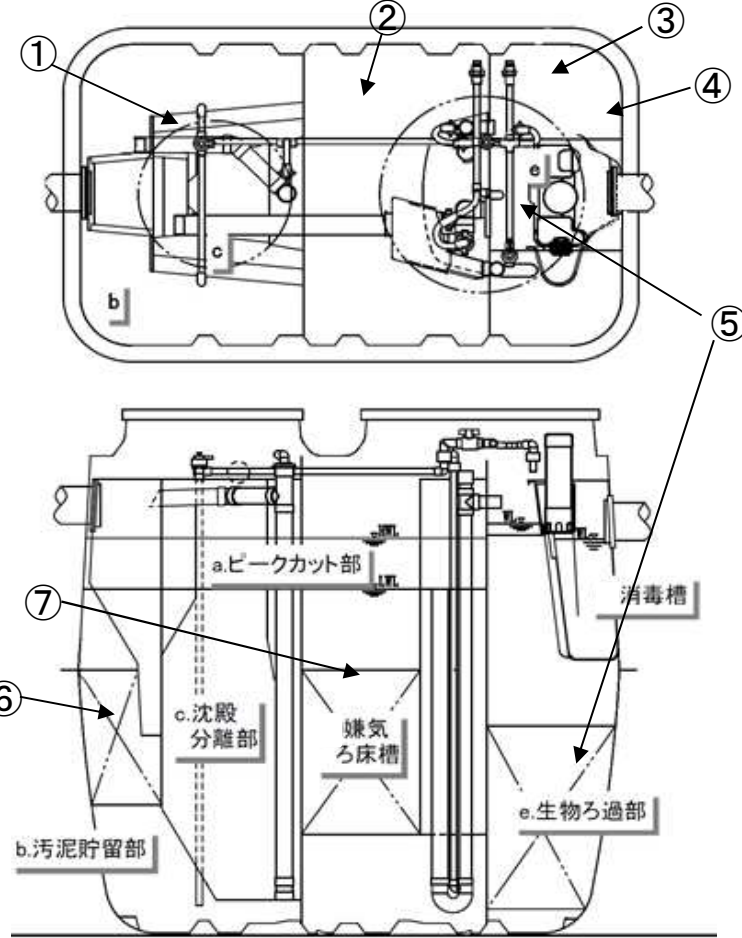
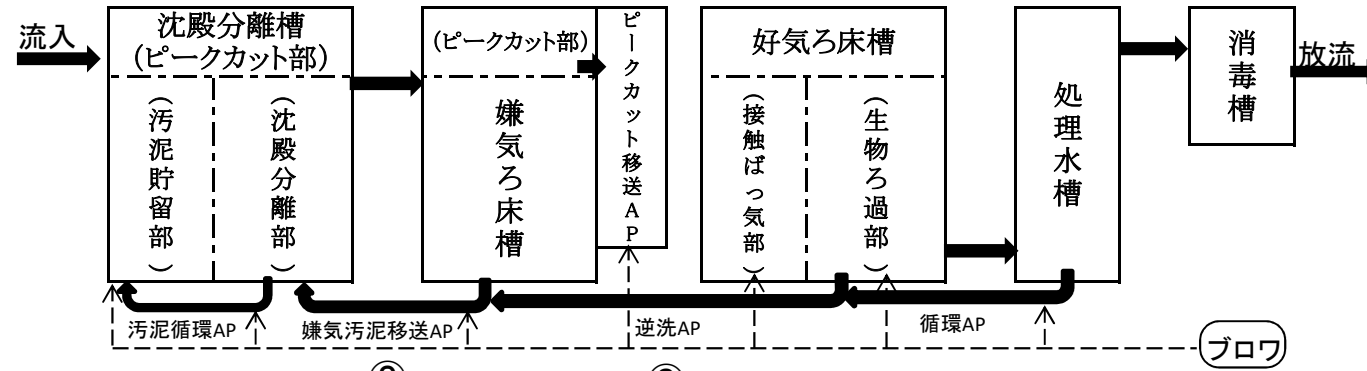
流量調整装置	調整戻りせき	循環装置	循環バルブ	汚泥循環装置	逆洗装置	逆洗用移送装置
有	有	有	有	有	有	有

プロフ型式		逆洗時間	逆洗時刻	逆洗回数	逆洗周期
5人	CFB-70	10分	2:00	3回	1日
7人	CFB-100	10分	3:00		
10人	CFB-140	15分	4:00		

[実使用人員に対する循環水量の設定範囲]

実使用人員		5人	7人	10人
循環水量(L/分)	L.W.L	1.8~2.2	2.2~2.8	3.4~4.0
	M.W.L	2.2~2.6	2.6~3.2	3.9~4.5
	H.W.L	2.9~3.3	3.4~4.0	4.9~5.5

※ 循環水量は、実流入水量のおおむね3倍となるように設定してください。



- ①沈殿分離槽
- ②嫌気ろ床槽
- ③好気ろ床槽
- ④接触ばっ気部ろ材
- ⑤生物ろ過部担体
- ⑥汚泥貯留部ろ材
- ⑦嫌気ろ床槽ろ材

有効容量 (m³)		5人槽	7人槽	10人槽
槽名	沈殿分離槽	0.509	0.712	1.037
	嫌気ろ床槽	0.466	0.633	0.908
	ピークカット部	0.150	0.210	0.300
	好気ろ床槽	0.229	0.336	0.446
	沈殿槽	0.102	0.147	0.216
	消毒槽	0.015	0.015	0.021
	合計	1.471	2.053	2.928

槽底部からろ材受け面までの距離(mm)	沈殿分離槽	390
	嫌気ろ床槽	300

特徴

沈殿分離槽 槽中央が沈殿分離部、槽壁付近は汚泥貯留部である。沈殿分離部では流入水に含まれる固形物が分離され、中間水が嫌気ろ床槽へ流出する。底部の汚泥はエアリフトポンプにより汚泥貯留部へ移送される。汚泥貯留部には、ヘチマ様板状ろ材が充填されており、常時ばっ気攪拌されている。なお、上部はピークカット部になっているため、水位が変動する。

嫌気ろ床槽 ろ材が充填され、下降流により固形物が捕捉される。ピークカット移送により中間水が接触ばっ気部に移送される。好気ろ床槽隔壁には戻りせきが設置されており、移送水量が調整される。自動逆洗時に、底部の堆積汚泥が沈殿分離部へ移送される。

好気ろ床槽 接触ばっ気部は、上向流である。生物ろ過部は担体が静置され、槽内は下向流である。底部と水面付近で連通しているため、槽内水は、2つの槽を繰り返し流れる。

処理水槽 槽内水は上向流であり、移流せきを介して消毒槽へ流出する。このせき高に基づき、嫌気ろ床槽からのピークカット移送水量が調整される。一方、槽内水の一部は、槽底部に設置された取水口から、沈殿分離槽へ循環される。

作業時のポイント

保守点検

- ①各単位装置の水位の異常な上昇およびその形跡を点検する。異常がある場合は閉塞箇所を特定し、解消する。
- ②沈殿分離部は、流出水の性状、スカム厚、堆積汚泥厚等から清掃時期を判断する。
- ③汚泥貯留部は、槽内水の性状およびばっ気の状態を確認する。加えて、汚泥循環エアリフトポンプの稼働状況を点検し、移送水量が少ない場合は配管等を洗浄する。
- ④ピークカット移送水量の調整について、保守点検ごとに各せきを洗浄する。また、処理水槽から消毒槽への計量せきのせき高を確認し、水量目安線に合致しない場合は、嫌気ろ床槽の戻りせきの高さを変更して、移送水量を調整する。
- ⑤生物ろ過部は、保守点検ごとに担体押さえ面を洗浄し、逆洗の状況を点検する。
- ⑥処理水槽は、流出水の性状、スカムおよび堆積汚泥の状態を点検する。汚泥は、柄杓などを用い、沈殿分離槽汚泥貯留部へ移送する。
- ⑦循環用エアリフトポンプは、バルブ開度の点検、移送水量の実測を行う。保守点検ごとに移送管を洗浄し、洗浄後は水量を再調整する。

清掃

- ①汚泥の引き出しは沈殿分離槽、嫌気ろ床槽ともに全量とする。その他の単位装置は必要に応じて実施する。